

過去の南海地震によると思われる地震の痕跡

Traces of paleo-earthquake supposed to be formed by Nankai earthquake

寒川 旭

Akira Sangawa

Traces of paleo-earthquake have been found at many archaeological sites, and their formation ages can be easily estimated by archaeological features and remains. These traces are useful for studying the history of Nankai and Tokai earthquakes, and supplementing the lack of historical documents.

1. はじめに

考古学の遺跡発掘調査の過程で、過去の地震によると思われる液状化現象や地滑りの痕跡が検出されることが多い。この中には、南海地震あるいは東海(東南海)地震による痕跡も多く、被害記録を裏付けたり、記録の空白を埋めることができる。

2. 南海地震の痕跡

右の図は、南海トラフ(駿河トラフ)をA~Eに区分して、南海地震・東海(東南海)地震の発生年代を記入したものである。西暦で書いたのは、被害記録から地震発生の方がわかるものである。

これによると、1605年以降の4回は両地震が、90~150年の間隔で、ほぼ同時に発生している。ところが、それより前は、文字記録の絶対数が激減することもあり、1605年以降に見られる規則性が不確かになる。

遺跡で南海地震・東海(東南海)地震による可能性が高い地震痕跡が多く見つかるようになり(図の)、文字記録の空白が埋められている。

1498年は明応東海地震に関する記録のみで、南海地震に関する記録は知られていなかったが、高知県中村市のアゾノ遺跡や徳島県板野郡の宮ノ前遺跡でこれに対応する地震の痕跡が認められた。

『日本書紀』には684年の白鳳南海地震の記録があり、和歌山市の川辺遺跡・明日香村の酒船石遺跡でその痕跡が、静岡県袋井市の坂尻遺跡では対応する東海(東南海)地震の痕跡が認められた。

一方、南海地震について、1099年と1361年の間が262年の間隔となっているが、紀伊半島南端の和歌山県湯浅町の川関遺跡で1200年頃の地震痕

跡が見つかり、この年代にも南海地震が存在した可能性が高くなった。

文字記録と合致した年代の痕跡も、徳島県板野郡の神宅遺跡や淡路島の志筑廃寺で1854年安政南海地震、東大阪市の池島福万寺遺跡で1707年宝永地震の痕跡など、数多く検出されている。昨年は奈良県明日香村のカツマヤマ古墳で1361年の南海地震に対応する地滑り跡が認められている。

3. まとめ

文字記録と地震痕跡を組み合わせると、南海地震・東海(東南海)地震は、かなり規則的に発生しているように思える。そして、21世紀中頃までに、両地震がほぼ同時に発生する可能性が高い。

